

佐世保高専 JABEE アンケート（専攻科修了生）

1 調査の目的

本プログラムの「学習・教育到達目標」の各項目について、本校の技術者教育プログラムを修了した学生（専攻科修了生）が実際にその能力を身につけているか（「学習・教育到達目標」を達成しているか）を自己評価していただき、その結果を本プログラムの教育改善に資する。

2 調査対象

修了生 118 名

令和 3 年 3 月から令和 7 年 3 月専攻科修了生で、住所が把握できる者

3 調査方法及び調査時期

（1）調査方法 QR コード郵送、Google Forms による回答

（2）調査期間 令和 8 年 4 月 1 日（水）～令和 8 年 4 月 30 日（木）

4 回答数

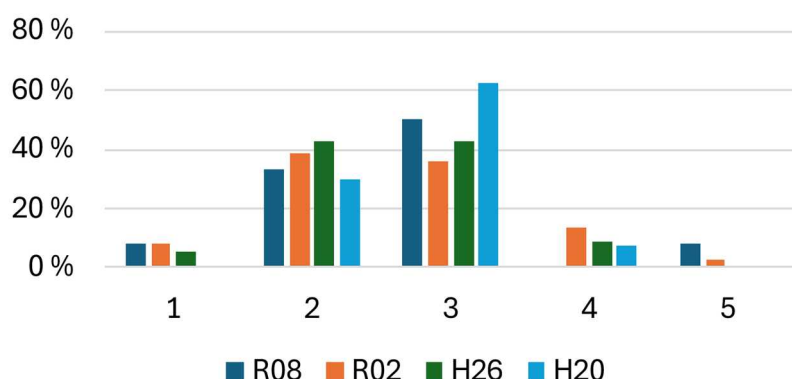
修了生：13 件

質問フォーム

佐世保高専専攻科修了生自身の能力についてお尋ねいたします。結果は5段階に分けていますので、どれに該当するかを選択して下さい。

目安として点数に直すと次のようになります。（非常に高い：80 点以上，高い：70 点台，普通：60 点台，やや不足：40-59 点，不足：39 点以下）

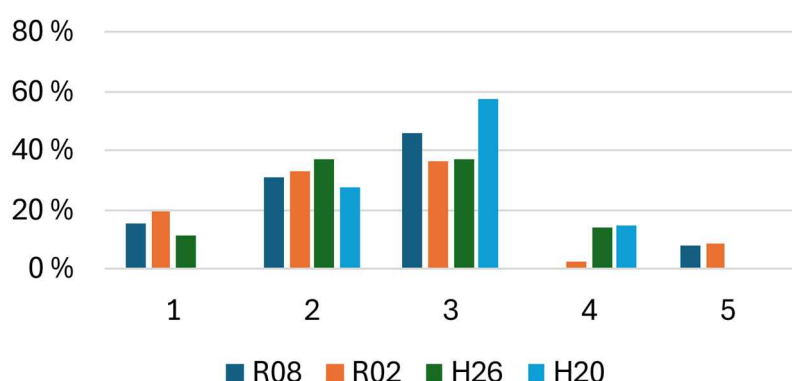
A-1-1. 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



数学の基礎能力については、「普通」以上の評価が中心であり、基礎的な応用力は概ね身につけている。一方で、「非常に高い」および「高い」の割合は突出して高いとは言えず、上位層の厚みには課題が残る。このことから、基本的な理解は達成されているものの、高度な応用力の育成にはさらなる改善が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

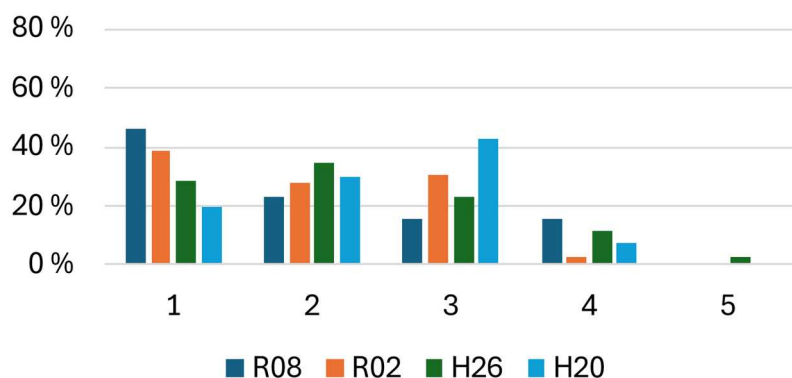
A-1-2. 自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できる。



自然科学の基礎知識については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、基礎的な理解と応用力は概ね確保されている。「やや不足」「不足」の割合は相対的に小さく、大きな問題は見られない。このことから、多くの学生が自然科学の基礎を適切に修得していると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

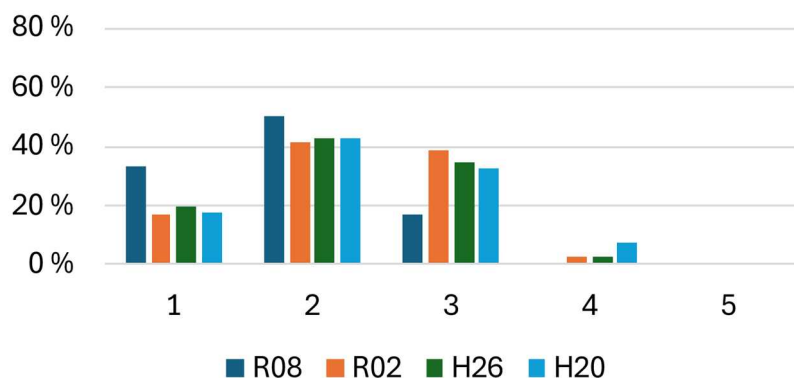
A-2. 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できる。



情報技術の活用能力については、「非常に高い」および「高い」の割合が比較的高く、全体として高水準にある。一方で、「普通」の割合も一定程度存在しており、能力の分布には幅が見られる。このことから、基礎的能力は十分に育成されているが、より高度な活用能力の底上げにつなげたい。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-3. 基礎工学の知識を身につけて、複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できる。

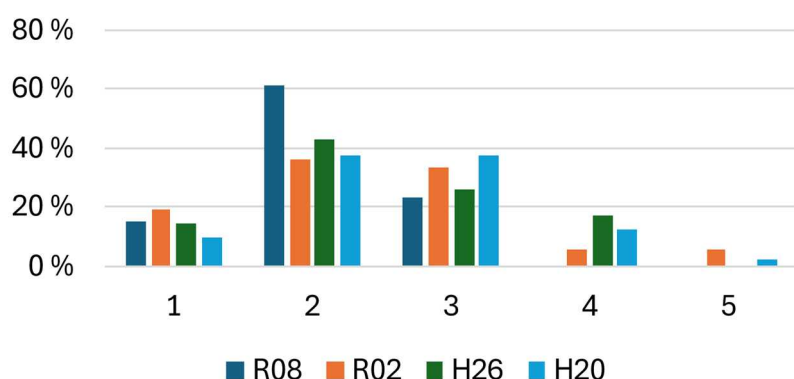


基礎工学の知識については、「普通」以上の評価が大半を占めており、全体として安定した達成状況にあると。「やや不足」および「不足」の割合はごく少数であり、基盤能力としては十分に確立されている。このことから、本項目については教育目標が適切に達成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

A-4. 【令和 5～6 年度修了生】それぞれの専門分野における”もの創り専門工学”の知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できる。

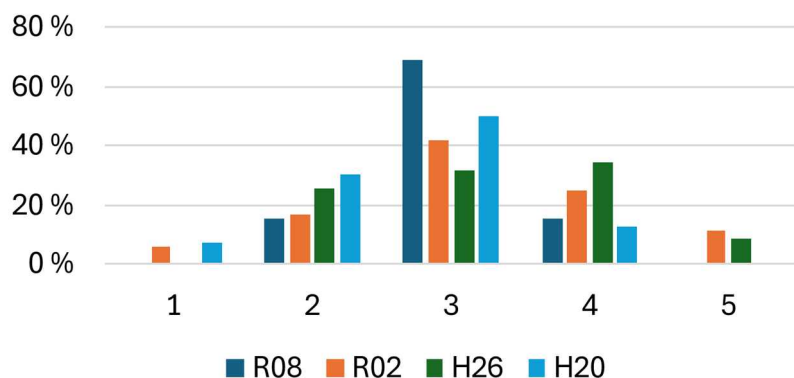
【令和 2～4 年度修了生】それぞれの専門分野におけるもの創りのための 4 つの専門科目群（材料・要素，設計・製造，評価・解析，複合系）の知識を身につけて，もの創りに応用できる。



専門工学の能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、一定の到達が認められる。一方で、上位評価の割合は必ずしも高くなく、能力の高度化には課題が残る。このことから、専門知識の基礎的活用は可能であるが、より実践的な応用力の強化が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

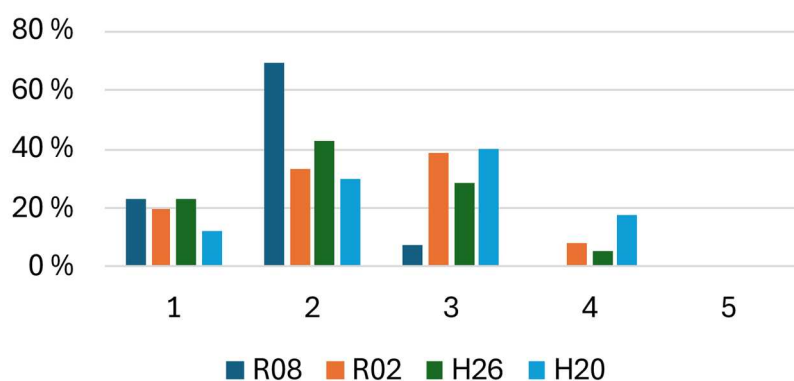
B-1. 他国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて、グローバルな視点でものごとを考えることができる。



グローバルな視点については、「普通」および「やや不足」の割合が比較的高く、評価が分かれている傾向が見られる。特に「やや不足」の割合が一定程度存在しており、十分な到達度には至っていない。このことから、本項目は他項目と比較して課題が残る分野であり、能力向上に向けた取り組みが必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

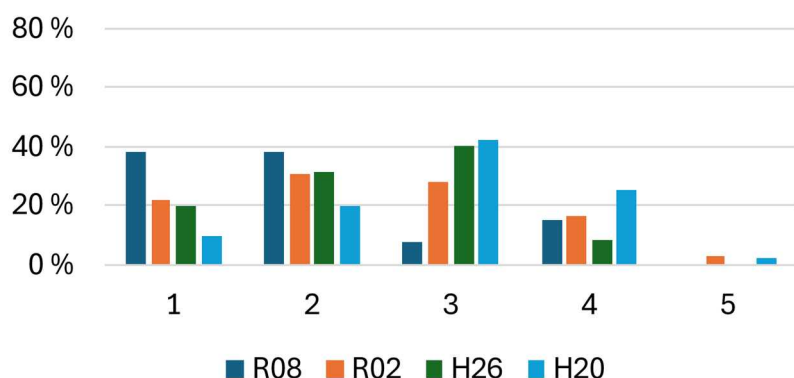
B-2. 技術が自然や社会に与える影響・効果を理解して、技術者としての責任を自覚できる。



技術者倫理については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として良好な水準にある。「やや不足」「不足」は比較的小さく、大きな課題は見られない。このことから、本項目については概ね適切に達成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

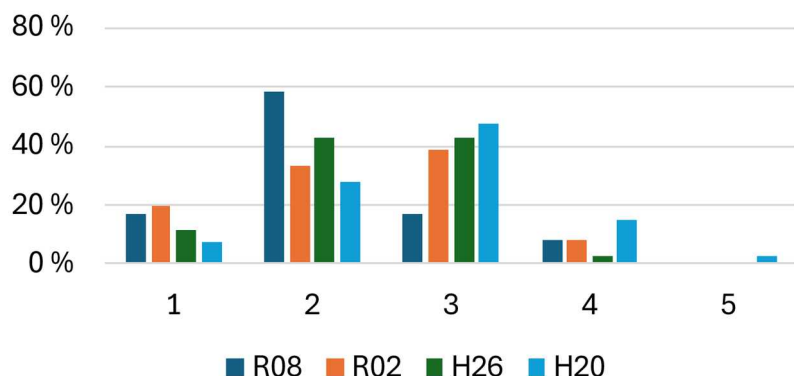
C-1. 技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できる。



日本語による説明能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、基本的な能力は確保されている。一方で、「やや不足」の割合も一定程度存在し、能力のばらつきが見られる。このことから、全体としては良好であるものの、一部の層に対する改善が必要である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

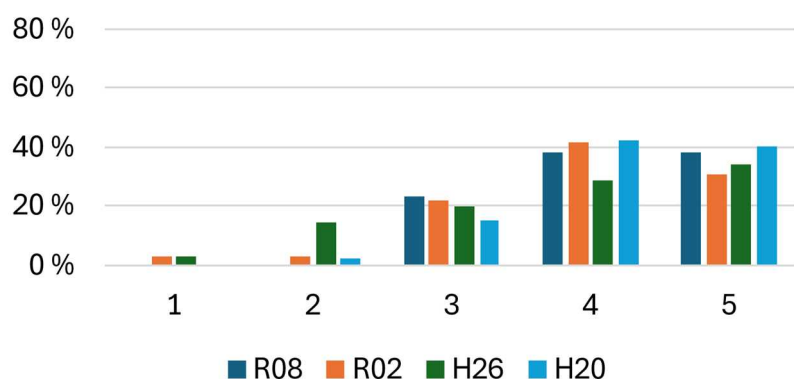
C-2. 相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができる。



日本語による応答能力については、「高い」および「普通」の割合が多く、全体として安定した評価が得られている。一方で、「やや不足」も一定数存在し、応答能力には個人差が見られる。このことから、基本的能力は達成されているが、全体の底上げが課題である。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

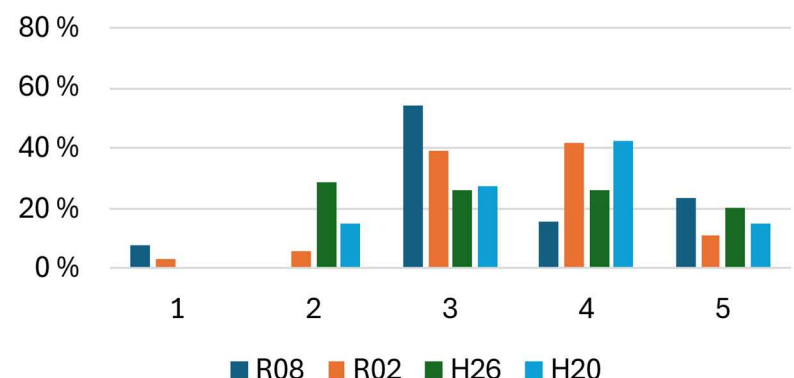
C-3. 英語による基礎的なコミュニケーションができる。



英語によるコミュニケーション能力については、「普通」および「やや不足」の割合が中心であり、上位評価の割合は高くない傾向が見られる。このことから、基礎的な理解はあるものの、実際の運用能力としては十分に高い水準には達していないと評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

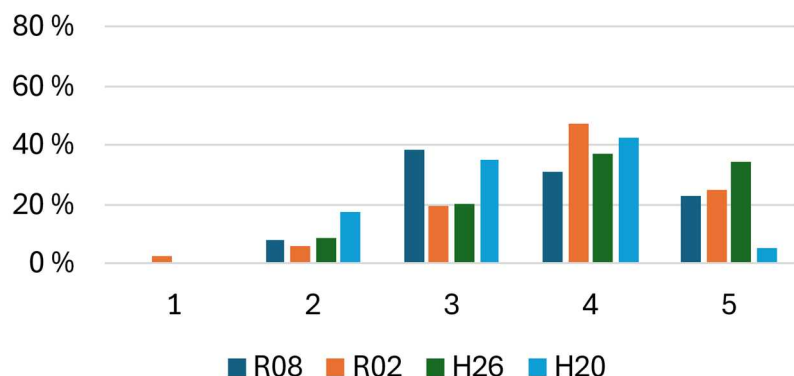
C-4-1. 基礎的な技術英語の文章を読むことができる。



技術英語の読解能力については、「普通」および「やや不足」の割合が比較的多く、十分な到達には至っていない。「高い」評価の割合は限定的であり、能力向上の余地が大きい。このことから、技術英語の読解能力は本プログラムにおける改善課題の一つであると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

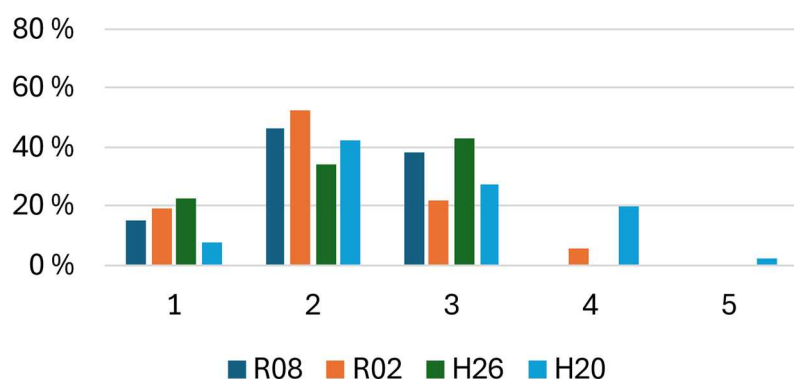
C-4-2. 基礎的な技術英語の文章を書くことができる。



技術英語の記述能力については、「やや不足」および「不足」の割合が高く、全体として最も低い水準にある。「高い」評価は少なく、能力の到達度は十分とは言えない。このことから、本項目は本プログラムにおける重点的な改善課題であると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

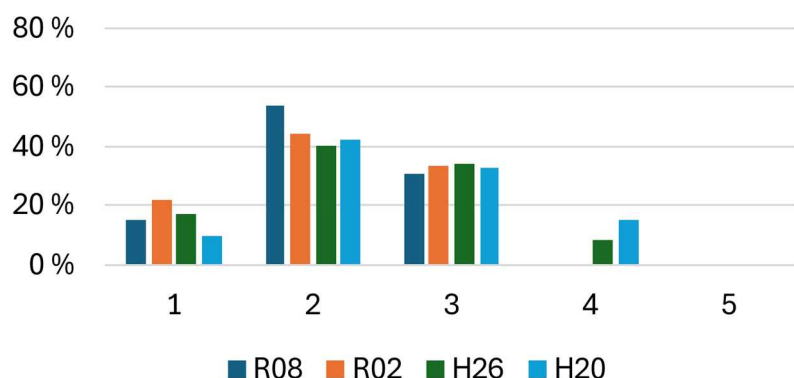
D-1-1. 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施することができる。



実験計画能力については、「高い」および「普通」の割合が多く、全体として良好な水準にある。「やや不足」「不足」は少なく、大きな問題は見られない。このことから、本項目は適切に達成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

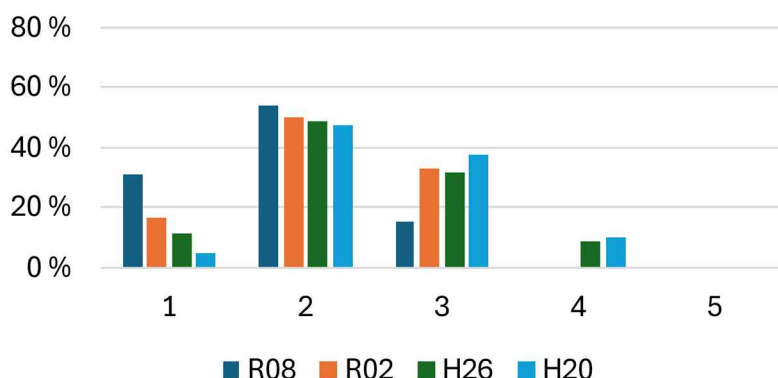
D-1-2. 得られた結果を正しく評価・解析して考察し、論理的に説明できる。



実験結果の解析能力については、「非常に高い」および「高い」の割合が高く、「やや不足」「不足」はほとんど見られない。このことから、多くの学生が解析・考察能力を十分に身につけていると評価される。特に上位評価の割合が高いことから、本教育プログラムの強みの一つであると考えられる。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

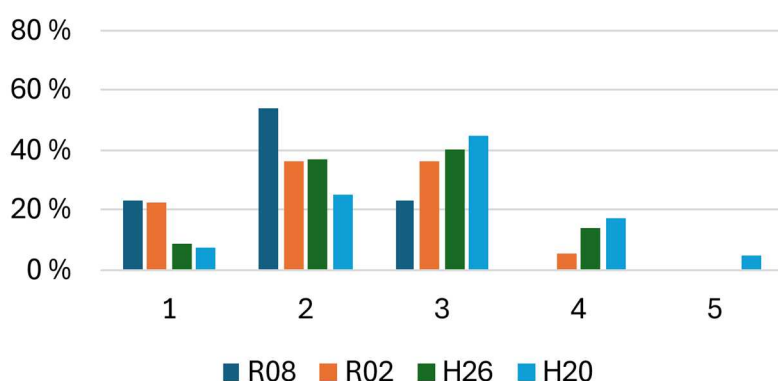
D-2-1. いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使することができる。



複数分野の知識活用能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として安定した水準にある。「やや不足」は少数であり、基礎的能力は十分に確保されている。このことから、本項目は概ね達成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

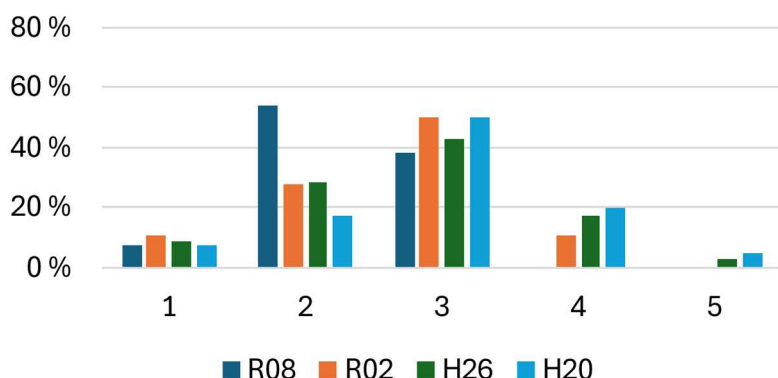
D-2-2. 創造性を発揮して、調査・解析をおこない、解決策を組み立てて実行し、課題を解決できる。



創造的問題解決能力については、「非常に高い」および「高い」の割合が多く、全体として高水準にある。また、分布としては上位評価の割合が増加している傾向が見られ、能力の向上が示唆される。このことから、多くの学生が課題解決能力を十分に身につけていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

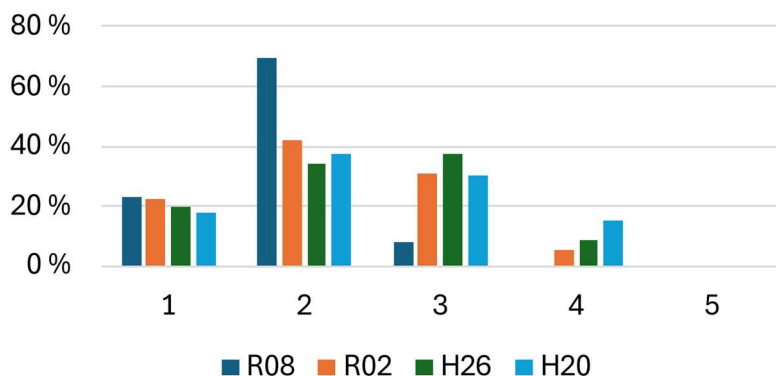
D-3. 社会の要求する課題を解決するにあたって、その内容を分析して、計画や方策を複眼的にデザインできる。



デザイン能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体として一定の水準に達している。また、分布を見ると「やや不足」がほとんど見られず、前回に見られた不足層が解消されている。さらに、「高い」評価へのシフトが確認できることから、能力の向上が示唆される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

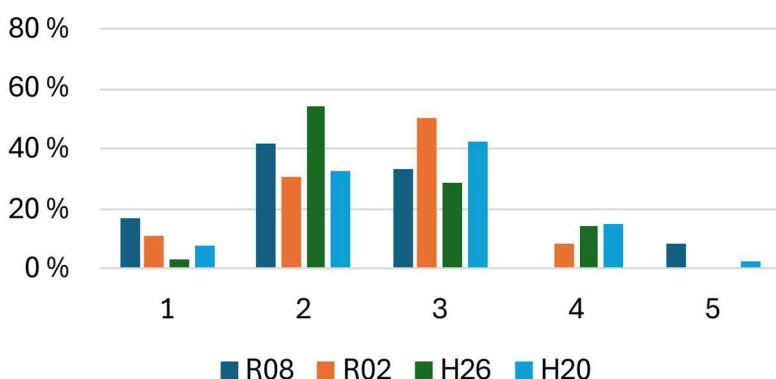
D-4. 実験、実習、研究、インターンシップなどを通して実践的能力を身につけ、技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。



実務対応能力については、「高い」評価の割合が多く、全体として高い水準にある。「やや不足」「不足」は少なく、実践的能力は十分に育成されている。このことから、本項目は本プログラムの強みの一つであると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

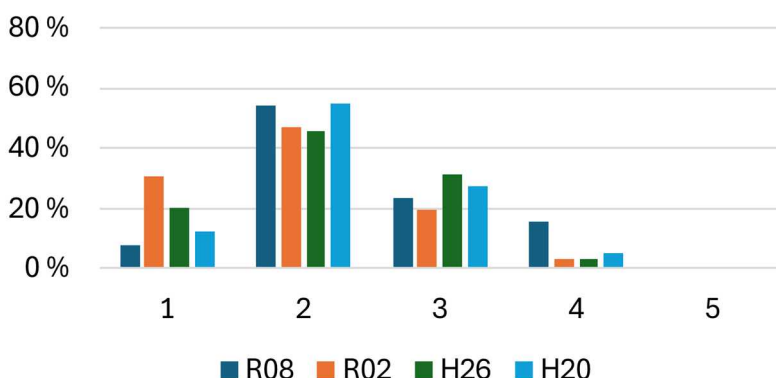
E-1. 社会の要請に迅速に対応し、科学技術の進展を先導するため、自主的・継続的に学習できる。



継続学習能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、良好な水準にある。「やや不足」は一定程度見られるが、大きな問題ではない。このことから、本項目は概ね達成されていると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

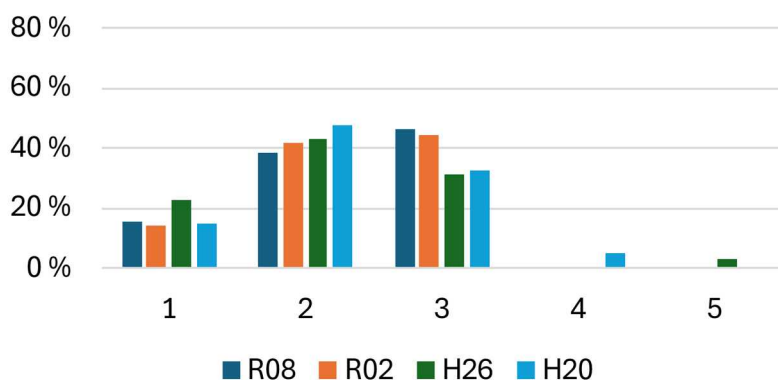
E-2. 要求された課題に対して、自立して、あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め、期限内に終わらせることができる。



協働能力については、「高い」および「普通」の割合が中心であり、全体としては良好な水準が確保されている。一方で、「やや不足」の評価が一部に見られることから、能力のばらつきが生じている。このことから、基本的な協働能力は達成されているものの、全体的な安定性には検討の余地がある。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

E-3. 健全な心身を持ち、学内外（あるいは社内外）の人々と協調して行動できる



協調性については、「高い」および「普通」の割合が大半を占め、非常に良好な水準にある。「やや不足」「不足」は見られない。このことから、本項目は本プログラムの強みの一つであると評価される。

1：非常に高い 2：高い 3：普通 4：やや不足 5：不足

本アンケートは修了生自身による自己評価であり、主観的評価を含むことから全体として高めの傾向が見られる可能性がある。しかしながら、各項目において評価分布の差異および特徴が明確に確認されることから、本プログラムの教育効果を把握する上で有効な結果であると考えられる。

全体傾向としては、「高い」および「普通」の割合が中心であり、多くの能力について一定水準以上に到達していることが確認される。特に、基礎工学（A-3）、実験解析（D-1-2）、実務対応（D-4）、協調性（E-3）などにおいては低評価がほとんど見られず、高い水準で安定していることから、本プログラムの強みであると評価される。また、創造的問題解決（D-2-2）やデザイン能力（D-3）においては上位評価の割合が増加しており、実践的能力の向上が示唆される。

一方で、コミュニケーション能力に関しては一部に課題が見られる。日本語による説明力および応答能力（C-1, C-2）は概ね良好であるものの、「やや不足」が一定程度存在し、能力のばらつきが確認される。また、英語能力については、英語コミュニケーション（C-3）および読解（C-4-1）において中間層が中心であり十分な水準には至っていない。特に英語記述（C-4-2）は低評価の割合が高く、最も顕著な課題である。

さらに、グローバル視点（B-1）は「やや不足」が一定程度存在し、他項目と比較して到達度が低い傾向が見られる。一方で、技術者倫理（B-2）は安定した評価となっており、基礎的能力は適切に育成されていると考えられる。

以上より、修了生自己評価においては、基礎学力および実践的問題解決能力、ならびに協働・自己管理能力については高い水準で達成されていることが確認された。一方で、英語能力およびグローバル視点については依然として改善の余地があり、今後の重点的課題であると評価される。